

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1人1人の尊厳を大切にしたい理念を作り上げている。	<input type="radio"/>
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に理念を頭に入れてケアに当たるよう、オーナーや管理者より指導され頭に入れて取り組んでいる。	<input type="radio"/>
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議等で話す機会がある。家族の面会の際、会話の中にさりげなく理念を取り入れてのケアを理解してもらっている。	<input type="radio"/> 地域の方へグループホームを理解して頂く為に今以上に理念を伝えていく必要がある。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の際、近所の花屋に立ち寄ったり、歩く人に積極的に話しかけるようにしている。	<input type="radio"/> 地域との交流は始まったばかりであり、気軽に立ち寄っていただくには努力が必要。特に2階は上がってもらいにくいので、自分たちから出向く事が大事。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運動会・文化祭・バザー等、参加を行い、地域の人からも声をかけてもらっている。	<input type="radio"/> 生き生きサロンへの参加等、まだ工夫と努力が必要。職員からまず、地域の行事に出向く事が大事。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員会議等で話題になることはあっても、現状としては自施設の入所者のケアでいっぱいである。	○	今後の課題であり、頭に入れて取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1つ1つの項目を見直すことは、今のケアを見直すいい機会であると考え	○	今後も1つ1つ見直し、現実を知り目標を見つけていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者の状況、ケアの実態等、自分達を知っていただく努力を続け、少しずつ理解してもらっている。	○	自己評価内容を運営推進会議で伝えていくことも質の向上につながると思われる。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度の改正やわからない事は介護保険課等へ伺っている。	○	事故報告や書類の手続き等こまめに行い、又、包括支援センターとの連携を密にしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当施設にも該当者がおられるため、研修等参加し、勉強している。	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等参加し、知識を深め、スタッフ間で内容を共有している。又、常に倫理観を学び、人間として福祉人として高い意識を磨いている。	○	倫理観を学び続け、人間性の質を高めていくことで、虐待防止につなげていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族へ状況を説明し、家族の意向にそって退所等の方向を示している。	○ 家族への説明・理解は大切なので今いっそうの努力を心掛けていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は苦情を受け止める姿勢でのぞみ、話をよくうけとめ、職員会議にだし、検討するようにしている。	○ もっともっと気軽に意見をもらえる雰囲気作りをしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ぽっぽえんだよりの発行により、毎月行っている。また、面会時は利用料の徴収時にケアやお小遣い等、細かく説明している。	○ 東京・大阪等遠方に身元引受人のおられる方についての連絡が行き届いておらず、月に1回は必ず、電話連絡を入れるようにしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族より意見・不満・苦情を受ける事が少なく、またそのような場がない。生活の小さなことへの意向は面会時に伺っている。	○ 家族よりの苦情を気軽に言ってもらえる雰囲気作りをもっと心掛けていきたい。 (遠慮されている方も多いと思われる)
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議において小さなことから大きい事まで気軽に意見を言わせてもらっている。	○ 現状のまま続けていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な勤務調整をしてもらっており、必要時はすぐ出てきてもらえる職員もいる。	○ 今後も続けていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者は少なく、影響はないと思われる。1階と2階とで職員を1ヶ月に1～2人異動するもすでに顔なじみの職員の異動なので影響はないと思われる。	○ 今後も続けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交代で研修にいかせてもらい、研修報告も随時、行っている。	○	もっと研修会に参加させてもらいたいとすべての職員が思っており、積極性がある。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への参加を通じ、他施設のスタッフとの交流の機会も多く、その都度情報交流を持っており、学ぶ所は学ばせてもらっている。また、研修の受け入れも行い、意見ももらっている。	○	今後も他施設職員との交流を通じ、情報の共有、質の向上に努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	研修旅行へのすすめ、交流会への参加のおさそい等、いつも気にかけていただいている。また、外の空気に触れたり、感性を磨くために色々な物を見たり、参加するよう常々勧めてもらっている。	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員会議において、常々はっぱをかけてもらっており、必要と思われる職員には個々に面談をもってもらっている。	○	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた時に出来るだけ話を聞く時間を作るようにしている。また、相談内容によっては他職員へ相談する等し、誠意ある対応を心掛けている。	○	よりいっそうの努力をしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族に応じてこちらから話しかけていく家族、家族の方より話される家族、それぞれに応じて対応している。何でも話してもらえようなコミュニケーション作りを心掛けている。	○	話してもらいやすい雰囲気作りをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受診に関する相談を受けた場合、家族の意向にそった対応をし、関係機関とも連携をとっていている。	○	今後も続けていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新しい入所者に対しては、他入所者とのコミュニケーションを重視することで馴染みやすい雰囲気を作っていている。家族よりも情報を多く聞くようにしていている。	○	今後も続けていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員1人1人が入所者との会話を重んじ、一緒に行動しその都度、考えていくことで喜びや怒りを共有できている。	○	一緒に喜怒哀楽を共有することこそが自分たちの生きがいだと考えている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の事情、心情を伺う機会を多くもつことで、家族の立場を理解できるよう心掛けている。	○	もっと家族と近くなれるよう、工夫が必要。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族や本人より聞いた親子関係等の事情は、他職員へも伝えることで皆が理解できるよう努めている。	○	今後も続けていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方より入所してきた人や事情のある人には出来ない事もあるが、できるだけ馴染みの関係を保てるようにしている。	○	今後も続けていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入所者同士の相性等あり、難しい人間関係も多いが、お互いを理解しあえるよう、伝え合い、わかりあえるよう仲裁に入るようにしている。	○	大切なことであり、もっと努力をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等が理由で退所した人を心配する気持ちがあっても、なかなか接する事が出来ない。	<input type="radio"/>	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の申し送り・モニタリングではもちろんのこと、日常の会話からも本人の意向を汲み取り、その都度、検討している。	<input type="radio"/>	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所当初はもちろんの事、日常の中で聞き取り、家族からも情報を得る努力をそれぞれのスタッフが行っている。	<input type="radio"/>	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフ間でミーティングを行い、柔軟な意見を出し合い、その都度検討している。	<input type="radio"/>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に見直し、その都度家族の意見を伺い、またモニタリングを行っている	<input type="radio"/>	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	骨折当の身体機能の変化が見られた場合、見直している。	<input type="radio"/>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録の中で記され、支援専門員が記録より見直し、経過記録に生かしている。	<input type="radio"/>	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行っている。	<input type="radio"/>	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	講演を聞きに行く入所者の方がおられた。	<input type="radio"/>	今後、取り組みをふやしていく課題である。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行っていない。	<input type="radio"/>	今のところ、該当者がおられないが、今後、頭に入れていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の中に包括支援センターが入ってこられたことで今後もっと勉強していきたい。	<input type="radio"/>	地域包括センターをもっと活用していけるよう、協力しあっていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望、状況によって退院を行い、スタッフが積極的に受診にかかわり、適切な対処を行っている。	<input type="radio"/>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	行っており、その都度相談できている。	<input type="radio"/>	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護師との連携を持ち、週1回訪問してもらうことで、普段の状況も把握してもらい、いつでも相談できる状況になっている。	<input type="radio"/>	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	行っている。	<input type="radio"/>	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	その都度、終末期に向け、状況の変化あり。家族に報告しお互いの気持ちを確認したり見直しをつけている。	<input type="radio"/>	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員会議で意見を出し合い、今後に向けての事、今難しいこと等、話し合っている。	<input type="radio"/>	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	特養入所希望等の家族に対して、わかりやすい説明と安心されるような対応を行った。	<input type="radio"/>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	外部からの個人の問い合わせは、了承を得てから行っている。記録(個人)には他者のことを記録する際にはイニシャルを用いている。	<input type="radio"/>
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ケアプランに沿ってその人の状況に合わせて対応を行うようにしている。	<input type="radio"/>
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・お茶とだいたいの目安を作っており、そろって食べていただくも、本人の希望や都合に合わせて早くや遅く食べてもらっている。	<input type="radio"/>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の希望のブティック、馴染みの美容院を利用してもらっている。日頃の格好は本人の好みに合わせよう努めている。	<input type="radio"/>
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえをしてもらい、気の進まれる利用者には茶碗を洗ってもらっている。	<input type="radio"/>
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	つけもの・卵・牛乳等、本人の希望する物を個人的に望まれる時間にお出ししている。	<input type="radio"/>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日常は出来るだけ、トイレに行かれるようにし、対象者によっては定期的にトイレ誘導している。夜間でも状況によち、Pトイレ、トイレ誘導を行っている。	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は火・木・土と決まっており、選べないことは申し訳ないが、入浴日の時間帯は本人に選んでもらっている。	○	ぽっぽえんの入所者にとっては曜日を定めていることで定着していると思え、その事が苦痛とは思えないが、毎日入浴というものも頭に入れていく必要がある。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その人に応じ、昼寝等伺い誘導している。また、自分で動ける人は自由に休まれている。	○	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ケアプランを通じ、その人の楽しみな事・喜ばれる事を頭に入れて、日々の生活の中でおすすめしている。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理の出来る人は財布より出し入れしていただいているが、自由に財布を使っている人は少ない。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	御希望や状況に合わせて出来るだけ外に出ていただく機会を作っている。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	サティへの買い物に家族同伴で行ってもらったりしている。しかし、遠方への外出は連れて行きたいも、実行できていない。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いたら、一緒に読み合わせ、返事を電話で入れている。家族よりの電話には、その都度御本人にも話していただいている。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の際はお茶やおかしを出し、ゆっくり話せるように工夫している。	○	
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いかなる場合でも本人の立場に立って、ケアできるよう常に話し合いつつ、取り組んでいる。やむをえず心や行動を拘束しそうな場合は話し合いを持ち、家族へも了承を頂いている。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	カギをかける場合がなく、問題なく取り組んでいる。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常々、所在確認を行っており、夜間は少なくとも1時間に1回は巡視を行っている。また、転倒の心配のある人には移乗のたび、見守りを行っている。	○	帰宅欲求のある人に対しては精神面に配慮しつつ、心をしばらないよう、行動を制限しないようにしつつ見守っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁等、危険性のある時は別に保管するようにしている。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒について勉強会をおこなったり、窒息・誤嚥等については看護師より勉強会を持ってもらっている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が出来る状況にはないと思われるが、看護師や訪問看護師よりすぐに駆けつけてもらえるような体制をとっている。	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年に2回行い、地域の人にも参加いただいている。	○	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランの説明の際、また状況に変化の出た際の面会時にはそれぞれの家族へリスクについて説明し、了解を得ている。	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の朝夕の申し送りにおいて変化を把握しあい、大切なことは連絡帳によって伝え合っている。また、急な変化は医療連携により、早い対応を行っている。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明用紙によってそれぞれ把握している。週に1度、処方を行うことで薬について理解できている。	○	全ての職員が徹底して理解できているとは言えず、更なる努力をしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	訪問看護師や医者に相談しつつ、その人に合わせた対応が出来るよう、互いに意見を出し合い、様々な努力を行っている。(例:服薬時間について、薬の種類、量について等) また、運動を心掛けている。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、記録を行い、確実にみがいてもらえるよう取り組んでいる。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表において、確実な量を記録し、食べたり飲めたりしていない場合は他でおぎなうようにしている。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する勉強会を行い、知識や意識を共有している。また、インフルエンザ等発症したら、独自のマニュアルを作り、それに沿って動いている。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	1~3日おきに買い出しを行い、生ものについてはその日に仕入れている。調理用具等の消毒は毎日、品を決めハイター消毒している。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	2階の入り口に季節の置物や花をおき、きれいに気持ちよく迎える努力をしている。	○	1階に比べ、マンネリ化した配置であり、もっと工夫が必要。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に整理整頓に努め、気付いたら片付けるようにしている。電気もマメにつけたり消したりしている。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	せまい空間において、車椅子同士ぶつかったりする際はさりげなく道を作るようにしている。また、行きたい場所へ行っていただき、仲のいい人同士、話せる環境作りをしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っていた物、好みの物を置いてもらえるよう努力している。居室の片付け等は出来るだけ本人に任せ、一緒に片付ける等行っている。	<input type="radio"/>	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気については寒がる入所者が多く、リビング等に人がおられない時に行っている。	<input type="radio"/>	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレが狭く、また、1人で動くのに移乗バーの必要な所など、リフォームを検討している。	<input type="radio"/>	手すりをつける予定の箇所が2ヶ所あるも、実現していない。近いうちにつけたいと思っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人1人と対話し、気持ちを汲み取りつつ理解する努力を行っている。	<input type="radio"/>	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ菜園等で個人の楽しみを作ってもらっている。	<input type="radio"/>	

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・1人1人の思いをくみとるために、話し方・聞き方・日々の生活への見守り等、様々な工夫を行い、情報を得、他スタッフと共有を行い、思いや悩みを抱え込まないよう、努めている。
- ・1人1人の喜びは何かを考え、喜んで頂く為に努力を惜しまない。
- ・家庭的な雰囲気心がけ、家族をひっくるめ、楽しく暮らせる努力をしている。
- ・医療連携を持ち、いつも健康管理を行い、安心してくらしてもらっている。